

樹脂の試作加工と試作金型・成形の「両輪」で事業を展開

— 1ロット「1個～100個」、納期は1週間が基本 —

試作でのモットーは「チャンピオン品」の精度に照準

「試作レスを意識し、産業機器分野の加工需要も取り込む」 誠武(神奈川県・綾瀬市)

— ユキワ精工ツリーングユーザー訪問 — 鈴木製造部長に聞く



テスト加工に関わった製造部の遠藤リーダー(右)と佐藤リーダー



テスト加工で使用されたワーク

「先(の仕事)内容は読めない。実績から予想するくらい」と言う。

結果は「加工音が静かになり、芯ブレがしづらくなった」

ユキワ精工との出会いは昨年のJIMTOF「サンプル品を持ち帰りテストすることに」

1986年創業以来の樹脂に特化した試作加工に加え、2005年からは金型成形分野にも注力、本格化させていき、現状ではこの2本柱で事業を運営している神奈川綾瀬市の誠武を訪ねた。

在職30年となる製造部の鈴木部長は「試作加工と試作金型成形を基本としつつも、試作レスという流れが生まれてくるなか、産業機器分野の加工に進出、新規を意欲した事業拡大にも留意している」と付け加える。

ものづくりのうえでのターニングポイントとして「1990年代半ば以降、受注に際しては2次元データ(図面)から3Dデータ(図面)から3Dデータによる指示が主流となっていた」設備の点でも1990年代半ば以降、マシンニングセンターがメインとなっていた点で、鈴木部長は挙げてく

特に3Dデータでの受注は、時間的に余裕が生まれ、顧客の拡大に繋がった点は特筆すべきだろう。

ところで、創業以来手がけている試作分野で最も重要なポイントは何か。

「顧客にとっては、試作品で色んなトライアルを実施していくため、精度ありきの世界を標榜している。試作でのモットーは『チャンピオン品』を狙うことにあり、この点でプログラミングが重



加工現場では女性陣の活躍も目立つ

か、実践的に検証していきたく」と当時は、合に多用していきたく」と思っ

物と組み合わせ活用していく計画。特にレベリの影響が大きい。切削量の多い加工で、高い寸

ツールホルダーを変えると、生産性が向上する



ツリーングシステム
スーパーG1チャック

YUKIWA

ユキワ精工株式会社

スーパーG1チャック
<https://www.yukiwa.co.jp/>



Precision Grade No.1
G1
Super G1 Chuck

本社・工場/〒947-0052 新潟県小千谷市千谷2600番地1 TEL.0258-81-1111(代) FAX.0258-81-1112
営業所/東京、名古屋、大阪、中国(上海)、U.S.A.

お客様から
ありがとうございます
と言っていただけの
ツールホルダー